

## 告 辞

本日、大分工業高等専門学校本科第五十四回卒業式並びに専攻科第十七回修了式を挙げるにあたり、今なお感染リスクが止まぬ新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、本式典は昨年度同様に、出席者人数を制限し、式典時間を短縮するとともに、感染防止の諸対策を講じて、ここに開催する運びとなりました。本日ご来賓として参列戴きました同窓会および後援会の両会長様、そして卒業生ならびに保護者の皆様、また残念ながら、参加をご遠慮いただきました多数のご来賓、ご家族および在校生の皆様には、快くご理解を戴き、厚くお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書とともに準学士の称号が授与されました本科卒業生百四十九の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。皆さんは、期待と一抹の不安を抱えて本校に入学してから五年間、本校の掲げる教育目的を達成するため、体系的に編成された基礎および専門の授業や実験・実習などを通して実践的な専門技術を学び、さらに卒業研究により未知の課題に取組み、解決する力を修得されました。また同時に、日々の学校生活での先生方や友人との触れ合い、部活動や学生会・寮生会を中心とした様々な課外活動を通じて、人間性を磨いてこられました。その結果として、ここに大きな成長を遂げ、本日卒業を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

専攻科の修了証書とともに、大学卒業と同等の学士（工学）の学位が授与され、加えて、JABEEプログラムの修了証を取得されました専攻科修了生二十一名の皆さん、専攻科修了、誠におめでとうございます。皆さんは、JABEE認定のカリキュラム「システムデザイン工学プログラム」に沿って、より深い専門の学問と高度な特別研究に取組まれ、自らの能力として創造力と実践力を高められるとともに、下級生への指導も含めて、本校の教育研究の充実に貢献して戴きました。皆さんが、高度の教育課程を納められ、ここに新たな旅立ちの日を迎えられましたことは、私どもの喜びとするところであります。

私ども教職員および在校生一同は、本科卒業生および専攻科修了生の皆さんと共に、この晴れの日の喜びを分かち合いたいと思います。

また、卒業生・修了生の皆さんを、入学以来今日まで支え、励まして来られた保護者・ご家族の皆様にも、心からお祝い申し上げます。今、成長されたご子息、ご息女の晴れ姿に万感の思いでご臨席戴いていることと存じます。高壇からではございますが、この場をお借りして、これまで皆様方から頂戴しました、学校の諸活動に対する多大なご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

卒業生、修了生の皆さんも、今日あるのは自分の努力だけではないことを再認識していただき、ある時は厳しく、ある時は優しく、常に皆さんを支え続けてくれた保護者、ご家族をはじめ、学校の先生方、諸先輩や友人たちなど、皆さんの

周囲の方々に対する感謝の気持ちを忘れないで戴きたいと思います。

さて、本日、卒業式並びに修了式を迎えられた皆さんに、これからの皆さんの人生において是非とも心に留めておいて戴きたいことを三つお話したいと思います。

一つ目は、「主体的に生きる。」ということです。丁度、今から十年前の二〇一一年三月十一日、未曾有の大地震、大津波によって多数の死者・行方不明者を出すとともに、福島第一原発におけるメルトダウンによって大量の放射能漏洩を伴う原子力災害を引き起こした東日本大震災、そして二〇一九年十二月以降中国で発生して爆発的な勢いで大流行し、世界中を震撼させた新型コロナウイルス感染症。誰がこのような事態を予測できたでしょうか。まさに、今や不確実性の時代と言われ、今後も予測しえない災害や事象が、私たち地球上に住む人類に襲い掛かって来るかも知れません。このような予測不能な時代に生きる私たちにとって大切なことは、固定観念にとらわれず、自らの力で考え、自らの意思や判断の下、責任をもって行動するということが必要です。身近な例で言うならば、皆さんたちが歩むこれからの人生において、仕事や生活面で経験もなく正解もわからぬ課題や困難に直面することが必ずやあるでしょう。そのような時、決して指示待ち人間になるのではなく、自らの力で考え、学び、決断し、打開のための行動に移して戴きたいと願います。たとえ、それが不成功に終わったとしても、次のステップに向けての更なる成長、発展に繋がるものと信じます。

二つ目は、「世のため、人のために尽くす。」であります。京セラの創業者で日本を代表する実業家としてだけでなく、数々の人材育成や慈善活動にも貢献をされた稲盛和夫氏は、ある講演の中で「人は何のために生きるのか」の問いに対して、「世のため人のために尽くすこと。人間ができていなければ、心が高まっていなければ、世のため人のために尽くすことなど、できるものではない。」と話されています。また、現在のパナソニック、旧松下電器を一代で築きあげ「経営の神様」と呼ばれた松下幸之助氏も、「世の為、人の為になり、ひいては自分の為になるという事をやったら、必ず成就します。」と、同様のことを述べられています。この世に生を受け、今日まで約二十年生きてきた皆さんは、これからの人生、六十年、七十年。何のため、誰のために働き生きていくのでしょうか？世の為、人の為に尽くすということは、単にボランティアなどの慈善活動を指すのではない、皆さんが従事する日々の仕事、日々の生活の中で、そのことを自覚できるような生き方をして戴きたいと願います。これからの人生、決して平坦な道ばかりでなく険しい山や谷もあるでしょうが、常に夢と希望、そして「世の為、人の為に」との使命感を持ち続け、困難や課題に果敢に挑戦して行って下さい。そうすれば、必ずや道が開け明るく充実した未来が待っているでしょう。

そして、三つ目として最も強調したいことは、本校の学習・教育目標のひとつである「愛の精神」を持ち続けるということにあります。「愛の精神」、この言

葉は、本校の初代校長である松尾春雄先生が「AMOR OMNIA VINCIT」（アモール・オムニア・ビンキット）愛は全てに打ち勝つというカール・ヒルティの言葉とともに提唱され、本校で脈々と培ってきた「大分高専の魂、ここにあり」とも申すべき言葉であり、本校卒業生の「合言葉」であります。また、先程申し上げた二つのことば、すなわち「主体的に生きる」、「世のため、人のために尽くす」も、この愛の精神に通じるものであります。世界の平和、安寧な人類の暮らしに貢献できる社会人となりうるために、豊かな教養を身につけ、自ら考え決断する力、慈しみの心を養って戴きたいと願います。

四月からは、就職して技術者として活躍される方、大学や大学院に進学してさらに研鑽を積まれる方と、進む道はそれぞれ異なりますが、常に、先輩たちが築いてこられた大分高専の伝統と誇りを忘れず、新しい分野の開拓者にならんと使命感をもって、それぞれの未来を築かれることを願っております。そして皆さんの活躍を通して、本校の歴史に新しく、輝かしい一ページを加えて下さることを期待しています。

最後になりましたが、本科卒業生並びに専攻科修了生はもとより、本日ここにご臨席の皆様方のご健勝と、ますますのご多幸を祈念して、告辞と致します。

令和三年三月十八日

独立行政法人国立高等専門学校機構

大分工業高等専門学校長 日野伸一